

## 23年度 柏崎市・刈羽郡学校教育研究協議会 生活科研究部活動報告

部長 小嶋美江子 会員数：小学校 35名 特別支援学校 9名

### 1 研究活動の方針

- (1) 生活科における体験的な学習活動の充実と会員の実践力の向上を図る研修を目指す。
- (2) 日々の実践をもとにした情報交換や会員相互の交流により、資質・指導力向上を目指す。

### 2 研修の内容

#### (1) 研修1 夏野菜を使った調理実習・情報交換会 (6月28日 参加者 30名)

会場：刈羽村生涯学習センター ラピカ 講師：刈羽村食生活改善推進協議会委員 6名

内容：「ピーマン・なすを使ったライスピザ」「トマトとキュウリのサラダ」の調理実習

学校で育てている夏野菜を使って、子どもたちでも簡単にできる「ライスピザとサラダ」の調理を体験した。完成品を試食しながらグループ単位で行った情報交換会は、会員各自の実践や指導上の悩み等が話し合われ、有意義なひと時となった。

#### (2) 研修2 市教育センター研修講座「学校教育と動物飼育」(8月9日 参加者 60名)

講演①「生活科・総合的な学習の時間における動物飼育の充実」

文部科学省初等中等教育局教科調査官 田村 学 様

講演②「学校(園)動物の飼い方・接し方」新潟県獣医師会副会長理事 宮川 保 様

実践発表「命を大切に作る心を育むモルモットの飼育活動」新潟市立紫竹山小教諭 2名

新潟県獣医師会との共催で開催された研修会は、文科省の指導的立場から、学校現場にかかわっている獣医師会側から、学校現場の実践例報告と、今後の学校現場における動物飼育の在り方を方向付ける大変よい研修であった。参加者からは、「学習指導要領との関連から、動物飼育の意義が具体的に分かった。」「獣医師と連携していくことで、さらに飼育活動を充実させることができると知った。」「具体的な実践発表から、飼育をする上での専門家とのコミュニケーションの大切さ、人間と動物との深いかかわりなど、大切なポイントを学ぶことができた。」と、多くの好評を得た。

#### (3) 研修3 教育課程伝達講習会 (8月18日 参加者 30名)

会場：刈羽小学校 講師：生活科部会会員 2名

#### (4) 研修4 生活科 教材研修会「あきのあそび」(10月19日 参加者 24名)

会場：柏崎市立教育センター 講師：教育センター指導主事

内容：「身近な自然とのかかわりを通じた活動～あきのあそび～」の教材紹介と実作

児童が身近な自然に興味・関心を持って観察したり、自然を利用した遊びに使う物を工夫して作ったりする学習活動は、事前準備や教師の提示する教材が重要である。この研修会では、材料集めから、教材にする前の下準備の仕方、工作のアイデア等が紹介され、参加者自身が子どもになったつもりで、様々な工作に挑戦し、試作を行った。こま、やじろべえ、ドングリ落とし、木の実の楽器等、授業で活用できそうなヒントが満載の楽しい研修会であった。

### <23年度生活科公開授業 ～柏崎小学校「学びをつなげていく子どもを育てる」教育実践発表会～>

○生活科1年「いきものだいすき！ヤギの冬越し大作戦～」 田中文健 教諭 (12月2日)

6月から児童が飼育してきたヤギを、学校で冬越しさせるかどうか話し合い考えさせる本時であった。これまでの飼育経験や収集した様々な情報をもとに意見交換したり、ゲストティーチャーからの話を聴いたりすることを通して、児童が課題解決に向かって真剣に考える姿が見られた。

今回の改訂により、命を実感する機会として継続的な飼育・栽培が明記されている。ヤギを飼育する体験を通して、命の尊さや命のつながりをどう子どもたちに捉えさせるか熱心な協議が行われ、有意義な授業研究会となった。